

ウスメバル *Sebastes thompsoni*

地方名：てんから（小泊）、てり（岩崎）、つき



生態

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：3歳（尾叉長18cm）以上
- ③産仔期：12月ごろ交尾し翌年4月～5月にかけて産仔。
- ④分布：日本海では石狩湾から対馬海峡まで、太平洋では函館から銚子まで。
- ⑤生態：卵胎生魚。体長4mm～5mmで産出。体長約16mmまで表層で浮遊生活。体長40mm～60mmまでを流れ藻に付随して生活。その後ごく沿岸で底生生活を送り、成長と共に沖合に移動。3歳以上になると80m～150mの岩礁域に生息。

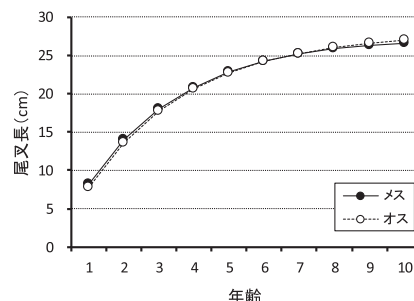


図 青森県日本海海域におけるウスメバルの成長

出典：菊谷（2001）メバル類の資源生態の解明と管理技術開発. 37-43.

主な漁業

青森県日本海では6月～8月に刺し網で、一本釣では周年漁獲され、盛漁期は5月～8月。主に水深80m～150mで漁獲される。日本海以外の海域では一本釣、本県太平洋北部では5月～6月に底建網により漁獲される。3歳～4歳から漁獲される。

資源の動向と水準

青森県の漁獲量は、2011年以降の減少傾向から2017年に増加に転じたものの、2023年には283トンと減少した。

2023年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の直近5年間の傾きから減少、資源水準は、コホート解析により推定した資源量と過去の漁獲量の推移を判断材料とし、低位と判断した。

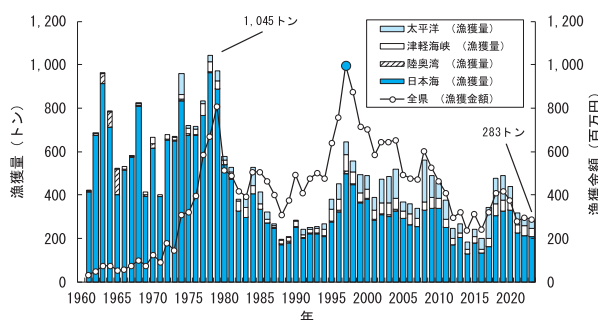


図 青森県ウスメバルの漁獲量及び漁獲金額の推移

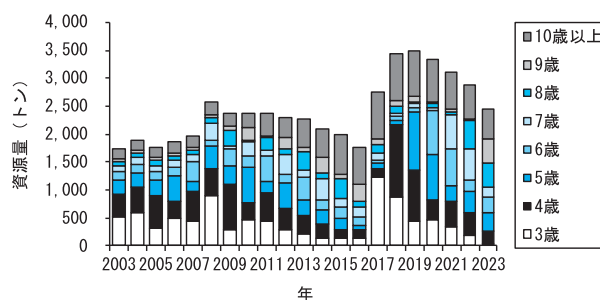


図 青森県ウスメバルの年齢別資源量の推移

資源の動向



減少

資源の水準

低位

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画（小泊漁協、下前漁協 1993年3月）
- 青森県ウスメバル資源回復計画（大間越漁協～岩屋漁協 2007年3月）
- ・小型魚の荷受け制限、休漁日の設定（日本海のみ）を定めた。
- ☆上記のように小型魚漁獲を自粛する取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・陸奥湾で採集した稚魚を中間育成し標識放流及び種苗放流を行っている。2010年以降では21,988尾の標識放流が行われ9尾の再捕があった。2023年は平均全長16.8cmの2歳509尾にダートタグの標識を施して放流した。